

第2学年 国語科学習指導案

児童 男子4名 女子6名 計10名
授業者 丹 百合

1 単元名 だいじなところに気をつけてよもう (光村図書2年上「たんぼぼ」p.70～p.77)

2 教材名 「サンゴの海の生きものたち」(説明文) 本川 達雄

3 単元について

(1) 教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。また、「書くこと」の目標は、「経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現する態度を育てる。」である。本単元で育てたい主となる能力は、「読むこと」の内容「イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「書くこと」の内容「イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」である。

本単元「だいじなところに気をつけてよもう」は、説明文「サンゴの海の生きものたち」でサンゴの海に棲む生き物の様子について読み取り興味をもつとともに、問われていることに対応した大事な部分への着目の仕方を学ぶことをねらいとしている。また、単元後半には、その学びを生かしながらいろいろな生き物について調べ、書いて知らせるという内容が位置付けられている。本教材「サンゴの海の生きものたち」は、サンゴの海に棲む生き物のうち、相利共生をしているものについて、その関係を並列的に説明している作品である。教材全体は、4つのまとまりで構成されており、「頭括文」・「問いかけ」・「内容(具体例)」・「尾括文」の全てが揃っている。1, 2学年で既習の4つの説明文では見られなかった「構成が完成した形の文章」ということができる。本教材の内容で最も読みの技能の向上が必要となるのは、「関わり合いを理解する」という部分である。本教材は、既習の説明文と違い主体が複数で、しかもそれらが双方向からの関わりで成り立っている。その関係を理解することにより発見や喜びが感じられる教材である。また、本教材の特徴として、主語や目的語が省略された文が多いということが挙げられる。主語や目的語の省略は短い文章の中に大事な言葉を盛り込むための効果的な手段であるが、児童にとっては誤読に陥りやすい部分となっている。更に、視点がめまぐるしく変化する点も特徴といえる。文中では視点の変化が自然に行われているため読み手は違和感を感じないのだが、これもまた誤読の原因になる可能性は否めない。加えて、同じ対象を違う言葉で表したり、逆に違う対象を同じ言葉で表したりという言葉の置き換えも見られる。読みの技能の向上が必要とされる要素が多い。しかし、1文1文が短く区切られている点、内容が絞られている点、構成が分かりやすい点、多角的に写されている挿絵(写真)など、読むための手助けとなる点も多い。そして何より、サンゴの海という美しく魅力的な題材と共生という意外性に満ちた話題は児童の心を惹きつける。海の中の生き物たちの関わり合いを読み進めながら、児童が未知のことを解明・発見できる喜びを実感できる教材であるといえる。

(2) 児童について

児童は、前学年の「いろいろなくちばし」「じどう車くらべ」「どうぶつの赤ちゃん」の学習で、問題提起型の文章を読み取る学習をしてきている。何を問われているかを理解し、「問いと答えの関係」をおさえながら読み進めていく力を身に付けてきている。また、2学年の「たんぼぼのちえ」の学習では、時間経過と順序を理解し、知恵と理由を明らかにしながら内容を読み取る学習をしてきている。これらの過程で、問いに対する答えをつかむ力、手掛かりとなる言葉や語尾を見つけ内容を理解していく力が身に付きつつある。しかし、本教材のように関わりが双方向で主語や目的語の省略が多い場合の文章にはこれまで触れたことがなく、理解に戸惑うことが予想される。また、頻出する視点の変化が児童のつまずきとなることも予想される。

「書くこと」についても、上記の4教材の後に本単元と類似した学習を行ってきている。しかし、それらは問いの文に対応した答えを書き記すにとどまっており、文章表現の効果を正確に用いて書く力は身に付いていない。特に本単元で位置付けた「関わり」についての表記で必要となる複数の主体について視点を変えて書くことについては経験が不十分である。書く際に、1文の構成や全体の記載方法について丁寧に指導していかなければならない実態といえる。

(3) 指導にあたって

本単元では、①内容を正確に読み取る力 ②大事な言葉に着目できる力 ③言葉を掘り下げることの楽しさを実感できる態度を養うために、次の3点に留意して学習を進めていく。

1点目は、「主語」と「主体」を意識させることである。本教材は、生き物の相互関係について書かれているため、1文1文は比較的短い文相互の関わりが複雑である。そして、本文の中では必ずしも「主体」が「主語」にはなっていない。そこで、主体を常に意識できるよう発問・板書・答え方を工夫したい。書く活動では、主体を意識した書き換えの活動も位置付けたい。そうすることにより、児童の思考は整理され、誤読は正され、内容を正確に理解できるようになると考えるからである。

2点目は、大事な言葉にサイドラインを引かせることである。本単元は「だいじなところに気をつけて読もう」という単元である。しかし、たくさんの新しい言葉に触れる児童にとって、どの言葉や文が大事なのかを見極めることはたいへん難しい。しかも、「大事なところ」は、問われている内容によって変わってくる。問いに対応する文にサイドライン、その中で最も大事な言葉に二重のサイドラインを引かせる活動を位置付けたい。そうすることで、たくさんの言葉の中から大事なところに着目できる技術が身に付くと考えるからである。

3点目は、言葉を具体的にイメージさせることである。本教材は、海の中という日常では経験し得ない環境が対象となっている。そのため、ひとつひとつの言葉の理解が確実でかつ、海の中の様子とそれが融合できないと、関わりの様子が理解できない。関わりを利益を感じることもできない。そこで、児童の言葉で言い換えさせたり（同義語・対義語）、必要な言葉や知識を補足したり、写真や映像を提示したり、動作化で動きや状況を疑似体験させたりしながら言葉を具体的なイメージに変えていきたい。特に内容の読み取り部分では、動作化を段階的（文意に即して行う動作化①と補足説明や資料から得た知識を含めながら行う動作化②）に行い、関心と理解を深めたい。そうすれば、読みが確かなものとなり、本教材のよさ「未知のことが解明・発見できる喜び」を実感できると考えるからである。

(4) 本校の研究にかかわって

本校の研究目標は、「確かに読み取る力を育てるために、説明的文章における、意図的な書く活動を位置付けた指導の在り方を実践的に明らかにする。」である。この目標の具現化のために、本単元の学習では次のような書く活動を位置付けていく。

1点目は、文や語句の抜き出しである。内容の大体を理解させるという意図がある。穴埋め・抜き書き・書き換えのいずれかの方法を用いる。補足的に、先にサイドラインで確認する場合もある。

2点目は、まとめを自力で書く活動である。1単位時間の終末の段階で、めあてに対応するまとめ、あるいはまとめを更に具体化した吹き出しを、ひとりひとりが自力で書く。内容を正確に理解させるという意図がある。書き出しや文末表現・文型を提示する場合もある。

以上の手立てを講じ、確かに読み取る力を育て、書いたものを評価することで、児童が学んだことを実感したり、自分で書いたものの正誤を判断したりすることができるようにしたい。

4 単元の目標と言語活動

(1) 単元の目標

- 海の生き物たちがどのように関わり合っているかに興味をもちながら読み、共生の仕組みの不思議を読み取ろうとする。【関心・意欲・態度】
- 本や文章を読み、生き物の関係について説明する「生き物絵本」を書くことができる。【書くこと】
- 「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、大事なことは何かを考えながら読むことができる。【読むこと】
- 片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。【言語事項】

(2) 本単元で行う言語活動

- 生き物の関係について説明する文章を書くこと。【書くこと】
- 生き物の関係について説明した本や文章を読むこと。【読むこと】

5 単元の指導計画（全13時間）

次	時	学 習 活 動	関心 意欲 態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	説明文学習を通して 身に付けさせた力 30
1	1	海の生き物に興味をもつ。 ①「どんな生き物が」「どのように暮らしているか」について、知っていることや予想を交流する。	◎					
	2	リライト教材を読み、「主述の関係」「大事な部分」について学習する。筆者に対する関心を高める。 ①リライト教材を音読する。 ②主述の関係を表に書き理解する。 ③大事な部分を見つけ、抜き出す。 ④新出漢字や語句の学習をする。 ⑤筆者についての情報を知る。				◎	○	5主述 8大意
	3	教材文を読み、学習感想をもつ。 ①全文を音読をする。 ②形式段落をつける。 ③「興味を持ったこと」「もっと知りたいこと」を中心に初発の感想を書く。	○			◎		2初発感想 3音読 23形式段落
	4	学習の見通しをもつ。 ①「生き物絵本」を作ることを知る。 ②挿絵をもとにあらましをとらえる。 ③全文を4つに分ける。 ④挿絵ごとの感想を交流し、それらをもとに読みの課題を立てる。				◎	○	1題名読み 3音読 4学習課題 23意味段落 24形式段落 25文章構成
2	5	頭括文と問いかけの文を読み取る。筆者に対する関心を高める。 ①第1, 2段落を読み、サンゴの海の様子を理解し、問われていることを読み取る。 ②新出漢字や語句の学習をする。 ③筆者についての情報を知る。 ④サンゴの海の映像を見る。	○			◎		3音読 6話題提示 7問いと答え
	6	クマノミとイソギンチャクの関わり合いを読み取る。 ①第3～6段落の記述から、クマノミとイソギンチャクの様子と関わり合いを読み取り、理解する。				◎		5主述 8大意 10指示語 11文と文 12文末表現 15中心語
	7	クマノミとイソギンチャクの関わり合いを読み取る。 ①クマノミとイソギンチャクの関わり合いの理解を深める。 ②クマノミとイソギンチャクの関わり合いを、大事な言葉を落とさずにまとめる。	○			◎		5主述 8大意 10指示語 11文と文 12文末表現
	8	ホンソメワケベラと大きな魚たちの関わり合いを読み取る。 ①第7～9段落の記述から、ホンソメワケベラと大きな魚たちの様子と関わり合いを読み取り、理解する。				◎		5主述 8大意 10指示語 11文と文 12文末表現 15中心語
	9 (本時)	ホンソメワケベラと大きな魚たちの関わり合いを読み取る。 ①ホンソメワケベラと大きな魚たちの関わり合いの理解を深める。	○			◎		5主述 8大意 11文と文 12文末表現

		②ホンソメワケベラと大きな魚たちの関わり合いを、大事な言葉を落とさずにまとめる。						
10		尾括文を読み取り，内容と構成の理解を深める。 ①第10段落を読み，内容と筆者の書きぶりのよさを理解する。 ②共生以外の関わり合いがあることを理解し，第3次の活動で書く視点を知る。				○		5主述 8大意 25文章構成
3 11 ～ 13		生き物の関係について説明した本や文章を読み，「生き物絵本」を作る。 ①生き物の関係について書かれている本や文章を読み，興味をもつ。 ②提示された文型にあてはめて，生き物の関係を文章に書く。 ③第2次のシートと合わせ，「生き物絵本」を完成させる。	○		◎		○	

6 本時の指導

(1) 目標

ホンソメワケベラと大きな魚たちの関わり合いの様子を読み取ることができる。

(2) 本時の評価

評価規準

ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いの様子を読み取り、大事な言葉を落とさずにまとめている。

Aの状況の具体的姿	Bの状況の具体的姿	Cの状況への手立て
関わり合いの様子を読み取り、提示された文型に従って大事な言葉を落とさずにまとめ、さらに補足説明をしている。	関わり合いの様子を読み取り、提示された文型に従って大事な言葉を落とさずにまとめている。	様子を表す言葉を確定できない児童には、本文を部分的に再読させ、大事な言葉への着目をさせる。また、様子を想起させる。 言葉の言い換え方が分からない児童には、視点が違うことを教える。

(3) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 (※) 評価
導 入 3 分	1 学習課題を確認する。		
	ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読みとろう。		
展 開 2 5 分	2 前時までの学習を振り返る。		※ホンソメワケベラの特徴と大きな魚たちの利点について振り返る。 ※本時は関わり合いの様子を読み取り、まとめることができたなら目標達成であることを共通理解する。
	3 課題を解決するために読む。 (1) 学習段落（形式段落⑦⑧⑨）を音読する。 ○どんな関わり合いのことが書かれているか考えながら読みましょう。 (2) ホンソメワケベラの利点について読み取る。 ○ホンソメワケベラが、大きな魚たちを好んでそうじするのはなぜですか。 【書く活動①】	「(虫) が、ホンソメワケベラの(食べもの)になるから。」	※⑦⑧⑨段落と挿絵を教科書同様の板書で提示する。 ※書くときには、以下の条件に合わせて書くように指示する。 「(何) が、ホンソメワケベラの(何) になるから。」の括弧の中に適語を入れる。 関わり合いの様子を読み取り、提示された文型に従ってまとめることができたか。(ノート・発表)

<p>展 開</p> <p>25分</p>	<p>(3) 関わり合いについて理解を深める。 ○ホンソメワケベラと大きな魚たちになって、海の中の様子を表してみましよう。</p> <p>○今の動作化を見て、気づいたことはありますか。 (なぜ、ホンソメワケベラは、ずっと岩場の陰にいるのでしょうか)</p>	<p>(動作化と会話文で表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホンソメワケベラは、大きな魚たちの体や口の中についた虫を食べる・・・ 「ありがとう。きれいになったよ。」「ありがとう。おいしかったよ。」「これでぼくも病気になるまいよ。」「危ない目に合わずにお腹いっぱいになったよ。」 ・魚は大きくて、そうじがたいへん。 ・ホンソメワケベラは、岩場の陰から出ると、他の魚に襲われるかもしれない。 ・岩場の陰にきてくれるのは大歓迎。 	<p>※とった虫を食べてしまうことを確認する。</p> <p>※動作化①：本文の言葉に着目しながら、文意の理解を確実にする。</p> <p>※動作化②：補助資料の情報を提示し、関心を高め理解を深める(大きな魚たちは、虫をとってもらわないと病気になること・ホンソメワケベラは常に岩場の陰にいて、大きな魚たちがそうじしてもらいに来る事を教える。)</p>
<p>終 末</p> <p>17分</p>	<p>4 学習のまとめをする。 (1) 関わり合いについてまとめ。 ○吹き出しに、ホンソメワケベラと大きな魚たちの関わり合いについてまとめましょう。できた人は、魚の言葉を自由に書きましょう。【書く活動②】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな魚 『体や口の中』を『そうじしてくれて』ありがとう。」 ・ホンソメワケベラ 『虫』を『食べさせてくれて』(又は、『とらせてくれて』) ありがとう。」 </div>	<p>※書くときには、以下の条件に合わせて書くように指示する。</p> <p>①大きな魚については『(どこ)』を『(どうしてくれて)』ありがとう。」の括弧の中に適語を入れる。</p> <p>②ホンソメワケベラについては『(何)』を『(どうしてくれて)』ありがとう。」の括弧の中に適語を入れる。</p> <p>③自由記述欄を設け、大きな魚とホンソメワケベラの内心語を記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関わり合いの様子を読み取り、提示された文型に従って大事な言葉を落とさずにまとめることができたか。(ノート・発表)</p> </div> <p>※書き終わった児童の文は、教師がその場で即時評価をする。評価の基準は、①大事な言葉が入っているか。②主体に合った書き換えができていないか、で判断する。</p> <p>※早く終わった児童については、自由記述欄の記入と感想をまとめるように指示する。</p>

終 末 17 分	<p>(2) まとめを発表する。 ○ノートに書いたまとめを発表しましょう。</p> <p>(3) 問いに対する答えを作る。 ○問いの文に対する答えを作りましょう。どんな生き物が、どんな関わり合いをしていますか。</p> <p>5 次時の学習を確認する。</p>	<p>・ホンソメワケベラと大きな魚たちは、たがいに助け合って（与え合って・支え合って）いるのです。</p>	<p>※掲示してある言葉の中から、適切なものを選びせる。</p>
-------------------	---	---	----------------------------------


(4) 板書計画

ま

ホンソメワケベラと大きな魚たちは、
(たがいに「たすけ合って」) いるのです。

サンゴの海の生きものたち
本川 たつお

大きな魚たち
体や口の中を
きれいにしてくれて
ありがとうございます。



ホンソメワケベラ

虫を
食べさせてくれて
ありがとうございます。

大きな魚たち
なぜ、そうじをするの？

(虫) が、ホンソメワケベラの
(食べもの) になるから。

大きな魚たち
なぜ、ホンソメワケベラを食べないの？

大きな魚たちは、体や口の中についた虫を、
ホンソメワケベラがとって、きれいにそうじして
くれるのを知っているから。

め ⑦⑧⑨ だんらく

ホンソメワケベラと大きな魚た
ちのかかり合いを読みとろう。